



にしあいづ物語講座から

新郷での戊辰戦争

町公民館では、町内各地区の「にしあいづ物語100選」を題材とした講演会やフィールドワーク「にしあいづ物語講座」を昨年より開催し、町の歴史と文化の普及啓発を行っています。本年度の第1回目は、新郷地区で開催しました。今年度は戊辰戦争から150年ということで、全国各地で幕末や明治をテーマとしたイベントが企画されていますが、本町にも注目すべき歴史があります。



→講師の長谷沼さんによる陳ヶ峯の解説

厳しい暑さが続く8月4日、本町における戊辰戦争の歴史に興味を持つ多くの参加者が新郷連絡所に集結しました。今回の講座のメインは、柴崎と呼賀で起きたヤーヤー一揆の際につけられた刀傷痕を見学することです。バスに乗り込み、講師の長谷沼清吉さんから戊辰戦争時の町周辺における西軍と東軍の動向や幕末から明治期にかけての農民たちの様子について話を聞きました。



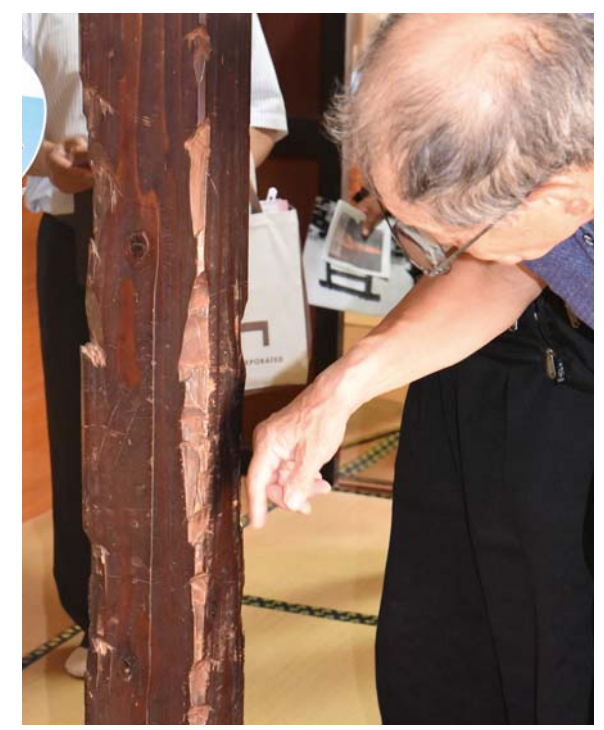
↑ヤーヤー一揆で狙われた水帳箱

に占拠された柴崎からはじまり、西軍と東軍の戦闘があった滑沢、平明、そして新撰組の齋藤一や幕府砲術隊の大鳥圭介が西軍と戦ったといわれている陳ヶ峯峠までです。柴崎と呼賀では柱にしっかりと残された生々しい刀傷痕や、水帳箱などの貴重な資料を見学し、今も残る当時の肝煎ならではの屋敷の間取りなどを知ることもできました。他の見学箇所でも、西軍と東軍それぞれの配置や動きについて講師が解説し、現在の地形から当時の戦闘の様子を想像しました。

新郷連絡所に戻ってから、戊辰戦争前後に一体何が起ったのかという話を聞き、今回のにしあいづ物語講座では、実際に縁ある場所を訪れ、現存する資料を見学することにより、当時の出来事をよりリアルに感じ、激動の時代を懸命に生き抜いた先人たちの姿に思いをはせることができました。町公民館では、これからも私たちが住む西会津町に関わる歴史を学び、「過去にどのようなことがあったのか」ということを後世に伝えていきます。



↓訪問した家にまつわる深い歴史を聞きました



↑生々しい刀傷痕が残っていました

西中図書館 新刊オススメ本



『風は西から』
村山 由佳 [著]
幻冬舎

なぜ彼は自ら死を選ばなければならぬほど追い詰められてしまったのか？ 恋人を過労自殺で失った主人公、千秋。彼の死の真相を知りたいと大企業に立ち向かいます。低姿勢を装いながら、お金で解決しようと言葉巧みに言い訳を繰り返し、遺族に圧力をかける権力者の姿は、小説の中だけでない現実の出来事とリンクして憤りを感じずにはられません。悔しくて涙し、また、人の温かい優しさにも涙した心に深く残る一冊です。



『青嵐の坂』
葉室 麟 [著]
角川書店

『ののほな通信』
三浦 しおん [著]
角川書店



『若山曜子のワンボウルサラダ ボウル1つでこんなにできる！』
若山 曜子 [著]
NHK出版

『体の「サビ」「コゲ」をそぎ落とせ。糖尿病もシミ・シワ、脳の老化も一掃できる』
栗原 毅 [監修]
主婦の友インフォス



町民ギャラリー まんさく俳句会

鳥追観音堂前に数多くの句碑があることはご存知のとおりです。その中の一つに、会津に現存する最も古い句碑（享保12年・1727）があります。白蓮尼という人の句です。

「燭火や照らせ給へる白蓮華」
まんさく俳句会代表 矢部 征男

- 一語づつ区切り物言ふ溽暑かな
相原 芳子 (野沢上原)
- 夜の秋おしゃべり子らはまりもなく
小野木 麗子 (真ヶ沢)
- 夜の秋中也の詩集卓に置き
薄よし子 (平明)
- 秋野菜蒔くをためらふ陽の強き
佐藤 ノシ (極入)
- 太鼓音に孫の手拍子夜の秋
田崎 宗作 (小杉山)
- 月涼し孫と戯むる下駄の音
西尾 公子 (野沢上原)
- 隣りあふ老老介護夜の秋
長谷川 清子 (野沢下小屋)
- 笑いヨガ燕の糞の置きみやげ
小林 雪柳 (講師・選者)